

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム久米		
所在地	岡山県津山市久米川南2551		
自己評価作成日	令和3年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301115-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山の木々、小鳥のさえずり、のどかな田んぼと自然に囲まれたところに事業所があり、四季折々の色彩が見え季節の移り変わりを感ずることが出来ます。事業所の理念を「第二の我が家」とし、利用者の思う暮らしに近づけるよう利用者の潜在している能力を引き出し生きがいや楽しみに繋がるよう、一人ひとりの心身の状態と想いに応じた生活に笑顔と優しさで寄り添い、職員と利用者の心が通う温もりのある共有共存の生活空間が提供出来る運営に取り組んでいます。食事は、地産の新鮮野菜で利用者の嗜好を取り入れながら手作りで提供し、昼食は職員と一緒に和気あいあいとテーブルを囲んでいます。また、24時間対応可能な協力医との連携で、何かあれば直ぐに対応して下さり利用者が安心して体調良く過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には田園風景が広がり、穏やかな時間の流れを感じさせる。コロナ禍の中、外出や面会等が以前のようにはできなくなったが、制限のある暮らしの中でも可能なことを見つけ、楽しみや生きがいに繋げている。テレビ電話での面会は行っている。家族を認識し、表情が笑顔に変わり元気になる場面もあった。地域や学校の行事が中止になっても、地域の人から職場体験をした中学生が今は元気に高校に通っている等の成長を教えてもらう機会があった。また、地域ケア会議に参加し地域の人と関わる機会を持つ等、良好な関係に努めている。職員は、「第二の我が家」という理念のもと、利用者の笑顔や喜びを引き出すため利用者に寄り添い、出来ること、好きなことを見つけ、我が家のように穏やかな生活を送る支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「第二の我が家」として、利用者一人一人の希望と願いを尊重し、我が家のように自分のペースでゆったりとした空間で穏やかな温もりのある生活が送れるようサポートしている。また管理者と職員はミーティング等で理念を共有し、定期的にケア目標を掲げ実践につなげている。	理念である「第二の我が家」という文字を、利用者と一緒に花紙を丸めて作成した。そのボードは、玄関に近い廊下の誰もが目に付く場所に掲げている。年間目標を立て取り組むと共に、基本を大切にしようと日頃から理念の共有と実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍にあり、地域の方々との交流や触れ合いがなかなか出来ませんでした。が地域の一員として関わりを持っている。	コロナ禍により、地域の行事が中止となり、地域住民との交流は難しいが、季節の野菜や花を事業所に届けてくれる人もいる。制限がある中でも地域ケア会議に参加し、地域住民との関りを継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議を通じて地域の方々に認知症の理解の輪を拡げている。また、入居に関する問い合わせだけでなく、現在困っていることに対しての支援方法など地域の方に分かりやすくお伝えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍にあり、運営推進会議を開催することが出来ませんでした。一日も早い開催を望み、意見交換が出来るようになることを期待している。	運営推進会議開催時には、警察から詐欺や交通安全についてなどの情報が得られたり、意見交換が行われたりしていた。コロナ禍の中、運営推進会議は開催できなかったが、今後は開催を検討している。	地域ケア会議に参加し、民生委員等とのやり取りはあるが、事業所の取り組みを伝える手段として、さらに会議の資料を送る等も検討して欲しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最新の情報を素早くメールでお知らせして頂いている。また些細な質問、相談事項があれば、直ぐに相談し敏速に対応して下さる。	日頃から行政の担当者と連絡を取り、制度の変更点や分からないことについて質問をしている。すぐに回答が得られない場合でも、調べて返事をもらっている。研修の案内があり、オンラインで参加することもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会を行い、随時ミーティング等で話し合い勉強会を開催している。身体拘束をしないケアを前提に、利用者が安全に自由に過ごせるよう、意見を出し合い身体拘束防止に取り組んでいる。	混乱し不穏な様子の利用者には、お茶を飲んでもらい、ゆっくり話を聞くことで落ち着いてもらう。飼っている犬が気になり帰宅願望を訴える人には、家族が預かってくれていることを説明し、安心してもらえるように対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、情報を共有し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。もしかしてこれは虐待にあたるのでは？と思うことがあれば直ぐに管理者・職員間で共有し見過ごされる事がないよう防止の徹底を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どちらの制度も利用者が活用されている。社会福祉協議会が開催する研修に参加し、制度について学び、ミーティング等で職員に情報提供し成年後見制度や日常生活自立支援事業を理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明し途中で途中で理解が図れているか確認し疑問や不安点等がないか確認した上で同意を得ている。一方的な説明にならないよう納得して説明を受けられる体制に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時は面談し困っていること不安なこと要望等に耳を傾け、気軽に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。意見、要望があれば可能な限り対応し運営に活かしている。遠方の家族に対しても必要に応じて電話等で連絡を取り、意見等お尋ねしている。	日頃の事業所での様子を便りにまとめ、家族に届けている。行事の様子だけではなく弁当作り等を写し、事業所での取り組みを知ってもらっている。家族からは、便りの写真に両親がどこに写っているかを確認するとの声があり、全員を掲載するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の職員間の会話の中やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けて反映させている。代表者と管理者は常に連絡を取り職員からの意見を伝えている。	普段からケアの方法を共有する機会を持つたり、月1回のミーティングで話し合ったりと、職員からの意見を聞き取る場を設けている。おしめの装着方法について、実際に職員がモデルとなり意見を出し合った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員一人ひとりの個性、得意分野を尊重し業務の中で生き生きと実践することで、やりがいに繋がるように働きかけている。また、一人一人の評価に応じ給与面に反映し、各個人が向上心を持って働ける職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が積極的に受講できるように支援している。研修内容をミーティング等で報告してもらい共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他施設の見学や交流は難しく、他施設の管理者と電話で連絡を取り現状把握と情報交換を行い、新しい情報を取り入れ業務に活かし、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネージャーの情報から性格、こだわり、行動パターンなどについて把握したうえで、関係作りを進めていき、本人の困っていること、不安なこと、要望等にしっかり耳を傾け本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくり面接して、困っていること、不安に思うこと、要望等に傾聴し常にご家族の立場になって、関係作りに努めている。また一番に利用者本位を尊重しながら家族との信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族、ケアマネージャー、医療関係者等の専門職から情報収集し、生活全般を捉えたうえでサービスを提案し、本人の機能向上を図れる支援を目標に行っている。また、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩で職員が寄り添いながら協働し、普段から色々な場面で色々な事を教えて頂きながら信頼関係を築いている。利用者が活躍発揮できる環境を提供し一緒に支え合いながら暮らしを共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は職員と家族の交流の機会でもあり、日頃の状態をお伝えし家族の思いを聞き、利用者の思いも伝え本人と家族との潤滑油となるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間帯等の制限なく24時間、365日受け入れています。また、外出、外泊などの機会が持てるよう家族、友人関係にも働き掛けている。現在コロナ禍にある中は面会制限および外泊は中止している。	コロナ禍により、窓越しの面会に制限はされているが、仕事帰りに来てくれる家族もいる。電話や手紙のやり取りを継続し、家族や親戚、知人との関係が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になれるよう職員が会話のサポートをし、コミュニケーションが円滑に出来るよう調整役となって支援している。一人ひとりが孤立しないよう、気が合う、趣味が同じ等の利用者との関係を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など細やかに情報提供し、連携を心掛けている。また機会を作って訪問したり家族からの相談にもものっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常会話、言動から今の思いや要望を把握し、利用者の思う暮らしに近づけるよう環境を整えている。また利用者の潜在している能力を引き出し、まだまだ出来ることがたくさんあるという喜びを感じ、生きがいや、楽しみに繋がるよう一人ひとりの把握に努めている。	入居時の情報だけではなく、日頃の生活の様子から、思いや意向を把握している。利用者から「秋は芋」という言葉を聞けば、さつまいもを使ったお菓子を作るなどしている。出来ることを見つけることで、生きがいや楽しみに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との会話を通じ生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。またお友達や親戚の人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来ること出来ないことを把握し、残存能力を確認しながら、現状を維持でき生きがい、満足感、達成感が得られる暮らしが出来るよう、日々心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族より意向を聞き本人のより良い望む暮らしを提供できるよう、課題とケアの在り方について職員間で定期的にモニタリングを行い、利用者の生活の質の向上を目指し、介護計画に反映させている。	利用者の今できること、希望すること、継続できることを大切に考え、介護計画を作成している。担当の職員と利用者の状態の変化について情報を共有し、モニタリングを行い介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体状況を把握し、食事、水分量、排泄、入浴、日々の様子、本人の発言、エピソード等を記録している。個別記録をもとにミーティング等で職員間で情報共有し実践、分析し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し状況に応じて、病院の付き添い、通院時の対応等、必要な支援は柔軟に対応し個々のサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員、愛育委員や老人会の方々と意見を交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携が出来、2週間に一度の往診があり、異常があればその都度往診に来て下さり安心して医療が受けられている。必要があれば、医師の指示を仰ぎ受診対応も行っている。	入居時にかかりつけ医を提携医に変更する人もいる。往診や訪問看護など、24時間対応の医療連携があることで、健康面での安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護があり看護師に利用者の身体状況を細やかにチェックしていただき、異常があれば敏速に、ドクターに連携していただける。また、その都度相談、助言があり適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関に情報提供し医療連携を行っている。看護師、相談員と細やかに連携を取り早期に退院できるよう努めている。また退院後、今後のケア方針を明確にするため、家族を含め他職種とカンファレンスを実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、身体状況の変化に応じて、その都度話し合い利用者、家族の意向を確認している。終末期に向けてのあり方について内容を深め、かかりつけ医、訪問看護と連携し共有しながら支援している。	事業所は看取りを行っている。当初は、怖いと訴える職員もいたが、ここで最期の時を迎えてもらって良かったと思えるケアに取り組んでいる。今年度の看取りは、献体を希望されていた人だった為、事業所の居室で家族葬をとり行い、送り出すという事例があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は年1回、救急救命法の講習を受け体験をしながら実践力を身に付けている。また、ミーティング等で緊急時の対応について定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を年2回行っている。地域の消防団員の方にも非常時の協力体制を依頼している。水害・土砂災害では地域との協力体制を築き定期的に机上訓練を行って災害対策を身につけている。	水害や土砂災害時には、孤立する危険があるため、地域住民と情報を共有している。避難訓練は消防署の協力を得て実施している。避難後に安否確認をする際、居室に人がいないことを確認したら名札を裏返しておくとのアドバイスをもらった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。	呼名の際には、さん付けで呼び、利用者同士の呼び方につられないように注意している。トイレ時は、便失禁があった際にも大きな声でその内容を話さないようプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時等、ゆったりとした時間の中で職員と会話を楽しみ、日頃の思いを打ち明けて頂けるよう働きかけている。また個別にドライブレシ気分転換を図りながら日常の思いや希望を表出してもらい自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら気持ち良く過ごしていただけるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回訪問美容により、本人の希望に合わせた髪のカットと顔そりをしてもらっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の好みに沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みの食事を積極的に取り入れ毎日食べる楽しみを持っていただいている。施設内にある畑で作った野菜を収穫し野菜の皮むきなどお手伝いしていた。毎年恒例の干し柿作りは利用者と職員で一緒に行っている。	栄養士にアドバイスをもらいながら、献立を作成している。手作りの食事にこだわり、事業所内で作った野菜や、地域の人からもらった野菜を使用した食事が並ぶ。おはぎやヨモギ団子を利用者と一緒に作ったり、下ごしらえや片付けを手伝ってもらったりと、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の体調と一日の摂取量を把握している。栄養バランスに配慮した献立や食べやすい食器の工夫等、個別に対応している。体調不良の際は粥・雑炊・栄養補助食品等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声掛け見守りし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。義歯の方はボリデントを使用し清潔に保つよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄出来るよう支援している。	トイレの場所を分かりやすく表記したり、排泄のパターンを把握して誘導したり等、トイレでの自立支援にむけ取り組んでいる。入居後に、おしめからトイレでの排泄に移行出来た人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽く体操をしたり、食事には毎昼食時にヨーグルトを提供しており、また繊維質の多い食材にも気を配っている。便秘の方には腹部マッサージも心掛け、それでも便秘の方には医師に相談し、下剤を服用して予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認し、楽しみの一つとしてゆっくりと寛いだ気分で入浴していただけるよう支援している。一人ひとりのその日の健康状態を見極め希望やタイミングに合わせて入浴していただけるよう工夫している。	入浴日を計画しているが、体調や気分により変更している。1日に入浴する人数を減らし、入浴中にゆっくりと話す機会が増え、楽しい時間となっている。入浴を拒否する人には、時間をかけて声掛けを行い、気持ちよく入浴出来るように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かれない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。居室の温度も個々の適温に調整し気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し全職員に分かるよう徹底している。服薬は利用者全員に手渡して、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや野菜の皮むき、洗濯を干したり畳んだり、お花の手入れや草取り、色々な手作業等、得意な分野で力を発揮し毎日役割を持ってハリのある生活が送れている。気分転換の為定期的にドライブ等外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望、希望があれば可能な限り対応をするよう心掛けている。利用者全員で外出する際は、休みの職員のボランティアがあり安全に出掛けられる。また地域の行事で外出する際は、地域の方の協力体制があり外出支援が出来る。	コロナ禍により外出の制限はあるが、ドライブがてら花見に出かけている。散歩やテラスでの外気浴、畑の手伝いなど、出来る範囲で外出や外気浴を楽しんでいる。以前は、地域の人の協力を得ながら、地域行事に参加することもあった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者による金銭管理は難しいため持たれていません。物品の購入の依頼があれば立替購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話が出来る方にはしてもらい、難しい方は職員が電話を掛け、話しをしてもらっている。手紙や年賀状が書ける方には、家族、友人あてに毎年送り、大切な人との手紙のやり取りが継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	女性の利用者が多いため、玄関、ホールには季節の花を飾って季節感を味わえる空間にしている。利用者が作成した塗り絵や貼り絵を廊下の所々に貼り定期的に交換している。ホールには大きなソファがあり、そこには利用者が集まりテレビを観たり居心地の良い温もりのある空間になっている。	利用者と一緒に作った壁画や飾りが共有スペースに飾られている。感染対策のため、時間を決めて換気をしている。加湿器や湿温計を設置し、安心して寛げる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから直接テラスに出れる空間があり思うように出て外の空気を吸い景色を眺めたり、ベンチに座って気の合う利用者同士でコミュニケーションが図れる。ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり絵画や生け花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や寝具などは、使い慣れたものを持ち込んで使用してもらっている。定期的に家族に衣類の交換をお願いし好みの服を着て楽しませている。家族の写真や、神社のお札、位牌なども持ち込まれ居心地よく過ごされている。	入居時には、使い慣れた家具等の持ち込みを依頼している。人形やお位牌、家族の写真や好きな芸能人のポスターなど、思い思いに馴染みや好みの物を設置し、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名札を掲げ、トイレの扉には大きな切り絵でトイレと分かりやすく表示しています。居室内は利用者の行動パターンを把握し、危険のないよう家具の向きやベットの位置など調整し、安全に過ごせるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301115		
法人名	有限会社 フロンティア		
事業所名	グループホーム久米		
所在地	岡山県津山市久米川南2551		
自己評価作成日	令和3年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301115-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7
訪問調査日	令和3年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山の木々、小鳥のさえずり、のどかな田んぼと自然に囲まれたところに事業所があり、四季折々の色彩が見え季節の移り変わりを感ずることが出来ます。事業所の理念を「第二の我が家」とし、利用者の思う暮らしに近づけるよう利用者の潜在している能力を引き出し生きがいや楽しみに繋がるよう、一人ひとりの心身の状態と想いに応じた生活に笑顔と優しさで寄り添い、職員と利用者の心が通う温もりのある共有共存の生活空間が提供出来る運営に取り組んでいます。食事は、地産の新鮮野菜で利用者の嗜好を取り入れながら手作りで提供し、昼食は職員と一緒に和気あいあいとテーブルを囲んでいます。また、24時間対応可能な協力医との連携で、何かあれば直ぐに対応して下さり利用者が安心して体調良く過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「第二の我が家」として、利用者一人一人の希望と願いを尊重し、我が家のように自分のペースでゆったりとした空間で穏やかな温もりのある生活が送れるようサポートしている。また管理者と職員はミーティング等で理念を共有し、定期的にケア目標を掲げ実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ禍にあり、地域の方々との交流や触れ合いがなかなか出来ませんでした。が地域の一員として関わりを持っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議を通じて地域の方々に認知症の理解の輪を拡げている。また、入居に関する問い合わせだけでなく、現在困っていることに対しての支援方法など地域の方に分かりやすくお伝えしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ禍にあり、運営推進会議を開催することが出来ませんでした。一日も早い開催を望み、意見交換が出来るようになることを期待している。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	最新の情報を素早くメールでお知らせして頂いている。また些細な質問、相談事項があれば、直ぐに相談し敏速に対応して下さい。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正化委員会を行い、随時ミーティング等で話し合い勉強会を開催している。身体拘束をしないケアを前提に、利用者が安全に自由に過ごせるよう、意見を出し合い身体拘束防止に取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、情報を共有し高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。もしかしてこれは虐待にあたるのでは？と思うことがあれば直ぐに管理者・職員間で共有し見過ごされる事がないよう防止の徹底を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	どちらの制度も利用者が活用されている。社会福祉協議会が開催する研修に参加し制度について学び、ミーティング等で職員に情報提供し成年後見制度や日常生活自立支援事業を理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明し途中途中で理解が図れているか確認し疑問や不安点等がないか確認した上で同意を得ている。一方的な説明にならないよう納得して説明を受けられる体制に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時は面談し困っていること不安なこと要望等に耳を傾け、気軽に何でも言って頂ける雰囲気作りを心掛けている。意見、要望があれば可能な限り対応し運営に活かしている。遠方の家族に対しても必要に応じて電話等で連絡を取り、意見等お尋ねしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の職員間の会話の中やミーティングで意見や提案を聞く機会を設けて反映させている。代表者と管理者は常に連絡を取り職員からの意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。職員一人ひとりの個性、得意分野を尊重し業務の中で生き生きと実践することで、やりがいに繋がるように働きかけている。また、一人一人の評価に応じ給与面に反映し、各個人が向上心を持って働ける職場環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が積極的に受講できるように支援している。研修内容をミーティング等で報告してもらい共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他施設の見学や交流は難しく、他施設の管理者と電話で連絡を取り現状把握と情報交換を行い、新しい情報を取り入れ業務に活かし、サービスの向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族、ケアマネージャーの情報から性格、こだわり、行動パターンなどについて把握したうえで、関係作りを進めていき、本人の困っていること、不安なこと、要望等にしっかり耳を傾け本人が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とゆっくり面接して、困っていること、不安に思うこと、要望等に傾聴し常にご家族の立場になって、関係作りに努めている。また一番に利用者本位を尊重しながら家族との信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に家族、ケアマネージャー、医療関係者等の専門職から情報収集し、生活全般を捉えたうえでサービスを提案し、本人の機能向上を図れる支援を目標に行っている。また、他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩で職員が寄り添いながら協働し、普段から色々な場面で色々な事を教えて頂きながら信頼関係を築いている。利用者が活躍発揮できる環境を提供し一緒に支え合いながら暮らしを共存している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は職員と家族の交流の機会でもあり、日頃の状態をお伝えし家族の思いを聞き、利用者の思いも伝え本人と家族との潤滑油となるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は時間帯等の制限なく24時間、365日受け入れています。また、外出、外泊などの機会が持てるよう家族、友人関係にも働き掛けている。現在コロナ禍にある中は面会制限および外泊は中止している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が馴染みの関係になれるよう職員が会話のサポートをし、コミュニケーションが円滑に出来るよう調整役となって支援している。一人ひとりが孤立しないよう、気が合う、趣味が同じ等の利用者との関係を把握し、利用者同士が関わりを持てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、支援状況や注意点など細やかに情報提供し、連携を心掛けている。また機会を作って訪問したり家族からの相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常会話、言動から今の思いや要望を把握し、利用者の思う暮らしに近づけるよう環境を整えている。また利用者の潜在している能力を引き出し、まだまだ出来ることがたくさんあるという喜びを感じ、生きがいや、楽しみに繋がるよう一人ひとりの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との会話を通じ生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。またお友達や親戚の人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの出来ること出来ないことを把握し、残存能力を確認しながら、現状を維持でき生きがい、満足感、達成感が得られる暮らしが出来るよう、日々心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族より意向を聞き本人のより良い望む暮らしを提供できるよう、課題とケアの在り方について職員間で定期的にモニタリングを行い、利用者の生活の質の向上を目指し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体状況を把握し、食事、水分量、排泄、入浴、日々の様子、本人の発言、エピソード等を記録している。個別記録をもとにミーティング等で職員間で情報共有し実践、分析し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し状況に応じて、病院の付き添い、通院時の対応等、必要な支援は柔軟に対応し個々のサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域生活を継続していけるよう民生委員、愛育委員や老人会の方々と意見を交換する機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間の医療連携が出来、2週間に一度の往診があり、異常があればその都度往診に来て下さり安心して医療が受けられている。必要があれば、医師の指示を仰ぎ受診対応も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護があり看護師に利用者の身体状況を細やかにチェックしていただき、異常があれば敏速に、ドクターに連携していただける。また、その都度相談、助言があり適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関に情報提供し医療連携を行っている。看護師、相談員と細やかに連携を取り早期に退院できるよう努めている。また退院後、今後のケア方針を明確にするため、家族を含め他職種とカンファレンスを実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い、身体状況の変化に応じて、その都度話し合い利用者、家族の意向を確認している。終末期に向けてのあり方について内容を深め、かかりつけ医、訪問看護と連携し共有しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は年1回、救急救命法の講習を受け体験をしながら実践力を身に付けている。また、ミーティング等で緊急時の対応について定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を年2回行っている。地域の消防団員の方にも非常時の協力体制を依頼している。水害・土砂災害では地域との協力体制を築き定期的に机上訓練を行って災害対策を身につけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならない言葉かけをするように努めている。また、その人の守るべき情報は決して漏らさない等、人権意識を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時等、ゆったりとした時間の中で職員と会話を楽しみ、日頃の思いを打ち明けて頂けるよう働きかけている。また個別にドライブレシ気分転換を図りながら日常の思いや希望を表出してもらい自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し、希望を尋ねながら気持ち良く過ごしていただけるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一回訪問美容により、本人の希望に合わせた髪のカットと顔そりをしてもらっている。着替えは本人に選んでいただいたり、職員と一緒に考えて、本人の好みに沿った支援を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みの食事を積極的に取り入れ毎日食べる楽しみを持っていただいている。施設内にある畑で作った野菜を収穫し野菜の皮むきなどお手伝いしていただく。毎年恒例の干し柿作りは利用者と職員で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の体調と一日の摂取量を把握している。栄養バランスに配慮した献立や食べやすい食器の工夫等、個別に対応している。体調不良の際は粥・雑炊・栄養補助食品等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声掛け見守りし、出来ない方に関しては、毎食後のケアを行い嚥下障害による肺炎の防止等に努めている。義歯の方はボリデントを使用し清潔に保つよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽く体操をしたり、食事には毎昼食時にヨーグルトを提供しており、また繊維質の多い食材にも気を配っている。便秘の方には腹部マッサージも心掛け、それでも便秘の方には医師に相談し、下剤を服用して予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の有無を確認し、楽しみの一つとしてゆっくりと寛いだ気分で入浴していただけるよう支援している。一人ひとりのその日の健康状態を見極め希望やタイミングに合わせて入浴していただけるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付かれない時には温かい飲み物を飲みながらお喋りをする等配慮している。居室の温度も個々の適温に調整し気持ちよく入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個人ケースに保管し全職員に分かるよう徹底している。服薬は利用者全員に手渡して、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや野菜の皮むき、洗濯を干したり畳んだり、お花の手入れや草取り、色々な手作業等、得意な分野で力を発揮し毎日役割を持ってハリのある生活が送れている。気分転換の為定期的にドライブ等外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望、希望があれば可能な限り対応をするよう心掛けている。利用者全員で外出する際は、休みの職員のボランティアがあり安全に出掛けられる。また地域の行事で外出する際は、地域の方の協力体制があり外出支援が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者による金銭管理は難しいため持たれていません。物品の購入の依頼があれば立替購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自ら電話が出来る方にはしてもらい、難しい方は職員が電話を掛け、話しをしてもらっている。手紙や年賀状が書ける方には、家族、友人あてに毎年送り、大切な人との手紙のやり取りが継続出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	女性の利用者が多いため、玄関、ホールには季節の花を飾って季節感を味わえる空間にしている。利用者が作成した塗り絵や貼り絵を廊下の所々に貼り定期的に交換している。ホールには大きなソファがあり、そこには利用者が集まりテレビを観たり居心地の良い温もりのある空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから直接テラスに出れる空間があり思うように出て外の空気を吸い景色を眺めたり、ベンチに座って気の合う利用者同士でコミュニケーションが図れる。ソファやダイニングテーブル、椅子の配置に配慮したり絵画や生け花等の装飾で居心地の良い空間づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や寝具などは、使い慣れたものを持ち込んで使用してもらっている。定期的に家族に衣類の交換をお願いし好みの服を着て楽しんでいる。家族の写真や、神社のお札、位牌なども持ち込まれ居心地よく過ごされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名札を掲げ、トイレの扉には大きな切り絵でトイレと分かりやすく表示しています。居室内は利用者の行動パターンを把握し、危険のないよう家具の向きやベットの位置など調整し、安全に過ごせるよう工夫している。		